

桜工

2013

東日本大震災復興・支援号Ⅱ



目次

学部長挨拶 「滝戸 俊夫」 理工学部の新学科・名称変更学科の紹介ならびに短期大学部 (船橋校舎)の新学科紹介	2
特集:「東日本大震災復興・支援・ボランティア」	4
福田 富一/成田 隆一/石川 渉 鳥海 清治/星野 諭/石見喜三郎/河原井真彦	
社長で頑張る・語る校友	9
新規事業へのチャレンジ 「千歳 喜弘」 私の学生時代 「有田 喜一」 ストロングポイントを磨け!! 「植村 典夫」 “2回”会社がなくなる事を経験して 「田村 仁」	
名人・達人	11
橋梁架設現場から生み出した技術の半世紀 「清水 健介」 神田祭のとりこになって 「田畑 秀二」	
理工学部・校友会NEWS	12
平成24年度理工学部校友会奨学生証書授与式 工科系校友会連絡会、工科系校友会支部長会開催 理工学部・理工学部校友会・顧問相談役会合同懇親会開催 教育支援/就職支援サイト/社会人大学院募集情報/駿博会への へのお誘い	
学科・協会賞受賞者—研究の楽しさ—	15
金子 由理香/永井 佑季/直江 学/邊見 信夫	
学術賞および学会・協会賞受賞者	17
入試・進路	20
部会だより	23
支部一覧	29
支部だより/クラス会だより	31
事務局だより(事務報告・収支報告等・会費納入者名簿)	33
平成24年度第二十四回「桜工賞」	36
海外で活躍する校友	37
海外30年、土木屋冥利に尽きる思い出 「土屋 紋一郎」 独逸エンジニア生活 「中上 裕佳子」	
教育支援・未来博士工房(事業委員長:川口 芳夫)	38
「未来博士工房成果報告」を終えて 「青木 義男」	
社会交通工学科創設50周年を祝って	40
航空宇宙工学科創設35周年記念式典のお知らせ	

理工学部の新学科・名称変更学科 紹介ならびに短期大学部（船橋校舎）の新学科紹介



理工学部長 滝戸 俊夫
(工業化学科：S45年卒)

理工学部では、来る平成25年度より教学面で大きく改革を進め新たに2学科を新設、さらに2学科の名称を変更して14学科へと編成替えし「総合理工学部」を目指すことといたしました。

この改革を校友の皆様方に周知させていただきたく、学科編成の変革に至った経緯ならびに学科の教育目標について紹介させていただきます。

理工学部は先端技術の修得と情報化・国際化に対応できる実践的専門教育を旨とし、90年以上にわたって発展してきましたが、12学科体制もすでに35年が経過し、社会の産業構造も大きく変化してきました。そこで将来的に発展・拡張が見込まれる理工系産業構造を捉え、それに応える技術者の育成を具現化することをめざし、平成21年4月より「学科再編検討委員会」を設置して3年間にわたって検討してきました。委員会では、近い将来に発展が予測される理工系産業界での技術者像を、米国を中心とした学問・業種等の世界的傾向の予測分析、日本国の人材育成施策、理工学部OBや国内のトップ企業経営者を対象とした将来必要性が高まる専門技術者や学問分野に対するヒアリングなどを総合的に調査し、さらに調査データを分析の結果、①都市創成・再生分野、②情報通信分野、③医療工学分野を設置の対象学科として位置づけました。そして、それぞれの分野に関して関連学科の教員も含めて詳細を詰め、①は土木・交通・建築・化学を軸とした分野横断的領域の学科を想定し、キーワードとして不動産、景観、環境工学、建設環境、都市計画、都市再生等が挙がり「まちづくり工学科」として具体化されました。また②はキーワードとして最先端の情報技術である通信ネットワーク、データベース、組み込みソフト等を駆使し快適で豊かな未来を創造できる人材養成をめざし、情報工学に特化した「応用情報工学科」として具体化されました。一方、③については必要性は十分理解できるものの学科の特色、教員人事構成、カリキュ

ラム等に更なる検討を要するため、今回は見送ることといたしました。その後、関連他学部との協議、教授会、文部科学省申請を経て、平成25年度に設置の運びとなったのです。

新設2学科それぞれの教育目標についてお話しいたします。まず「まちづくり工学科」では、以下のようになっています。現在「まち」を支える学問分野は土木、建築、造園など多岐に渡るにもかかわらず、これらを横断的にとらえた都市計画や都市工学の分野は主に都市域に特化され、小都市や農山漁村は取り残される状況になっています。そこで、建築物や構造物といった施設個々を対象とするよりも、それらを包含した地域・都市空間全体を対象とした総合的かつ広域的な計画・デザインに取り組める社会環境づくりができる技術者の育成を目標としています。次に「応用情報工学科」です。現在我々の身の回りにある自動車、電話、家電、モバイル機器などは全てにコンピュータや情報ネットワークが取り込まれていることから、コンピュータを核とする情報技術は今後益々高度化することが予想されます。このような背景から、付加価値の高い新たな情報を生み出す情報処理、各種情報を安全・確実に伝えるネットワークシステム、電化製品などを制御するソフトウェアを開発する組み込みシステムの3分野を修得させ、社会で活躍できる技術者の育成を目標としています。一方、学科名称を改めた2学科のうち、1学科が社会交通工学科から「交通システム工学科」への変更です。交通システム工学科は、交通ネットワークの整備・利活用、交通問題、環境・都市問題を解決する多様な技術者を育成してきたこれまでの教育に加えて、新たに高度情報技術を活用し移動者と交通施設や交通機関が有機的に結合した交通システムの再構築、ならびに安全で持続的な交通社会の創出を目指します。もう1学科は電子情報工学科から「電子工学科」への変更です。より豊かな高度情報社会を支える、エレクトロニクスの基盤となる「回路・計測／材料・デバイス(ハードウ

学部長挨拶

ア)」、それらに更なる進化をもたらす「情報基礎(ソフトウェア)」、そして、連携する世界を広げる「電子通信」の3つの分野を支柱として、基礎から最先端の電子工学を支える広範な学問領域を学びます。したがって、卒業生は理工系製造業のみならず、幅広い多くの企業で活躍・貢献できる人材となります。

また理工学部併設の短期大学部(船橋校舎)も、将来を展望し平成24年度より学科名称を変更し、3学科共通の教育プログラムと、各学科のカリキュラムを改定しスタートいたしましたので改めて皆様に周知すべく、ここに記載させていただきました。その背景には高等教育の大衆化や少子化などにより、4年制大学への進学率が年々上昇し、短期大学への入学志願者の減少傾向が顕著となり、専門職業・実務能力の育成への新たな短期大学の役割を果たす改革と整備が求められていたからであります。

新学科名称は①「建設学科」は「建築・生活デザイン学科」に、②「基礎工学科」は「ものづくり・サイエンス総合学科」に、③「応用化学科」は「生命・物質化学科」です。各学科には主専攻分野として①「建築デザイン分野」「建築エンジニアリング分野」「生活デザイン分野」②「機械分野」「電気電子分野」「情報分野」「物理学分野」「数学分野」③「マテリアル科学分野」「バイオ・環境科学分野」を配置し、1年生後学期から自分の関心に応じて主専攻分野を選択する制度を設けました。

また、学生の目標や興味に応じたユニット制のカリキュラムとし、授業選択の自由度を高める科目群を設けています。特に、2年間を通じて各学期でのゼミナールを必修科目として開設し、コミュニケーション能力、論理的に考える力量、プレゼンテーション能力など、実践的な技能を幅広く、専門知識の習得や卒業後の希望進路(編入学・就職・資格取得)の実現をサポートすることを促進しました。

さらに、少人数ごとのグループ担任制による指導により、入学直後から学生生活、学習方法、科目選択について、学生の個性と自主性に対応する指導体制は、本短期大学部の特長でもあります。

以上のように理工学部ならびに短期大学部(船橋校舎)では平成24年度および平成25年度より、新たな学科編成で学部・短期大学部教育を推進してまいります。校友の皆様方におかれましては、これらの改革をご理解くださり、力強いご協力とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

【理工学部】

各学科名外枠が各学科カラーです。

土木工学科

交通システム工学科(2013年4月名称変更)

建築学科

海洋建築工学科

まちづくり工学科(2013年4月開設)

機械工学科

精密機械工学科

航空宇宙工学科

電気工学科

電子工学科(2013年4月名称変更)

応用情報工学科(2013年4月開設)

物質応用化学科

物理学科

数学科

【短期大学部(船橋校舎)】

建築・生活デザイン学科

(建築デザイン・建築エンジニアリング・生活デザイン)

ものづくり・サイエンス総合学科

(機械・電気電子・情報・物理学・数学)

生命・物質化学科

(マテリアル科学・バイオ・環境科学)

社会交通工学科創設 50 周年を祝って

初会長 山本 忠章

社会交通工学科は、昭和38年7月、津田沼校舎（旧生産工学科）に交通工学として理工学部へ設立され、平成23年6月学科創設50周年を迎えました。

創設50周年の記念行事の一環として、国際シンポジウムが平成24年2月25日（土）に、記念式典・贈賞会・祝賀会が同年3月17日（土）に成河台校舎1号館 CST ホール、121 会館などで執り行われました。国際シンポジウムでは、「Future Perspective of Transportation Systems Engineering」と題して、社会交通工学科で学位を取られた留学生や学術交流の機会を交わしている大学の先生など、海外から8名の贈賞者を招聘し、学科創設も加わって交通システム工学分野における最近の研究、今後の研究展開などに関して、英語での贈賞と活発な討論が行われました。記念式典では津田沼校舎理工学部長、中村英夫東京理科大学校長、早川清一理工学研究会会長にご祝辞を賜わり、贈賞式では高田邦雄名誉教授（昭和41年卒業）、奥永真大輔氏（京大大学院修了）（平成3年博士課程修了）にご贈賞を賜りました。祝賀会では三浦裕二名誉教授、卒業生を代表して津田和彦氏のご挨拶、山本育理工学部次長の乾杯のご挨拶で和やかに閉幕しました。参加者は、国際シンポジウムが約100名、記念式典が約200名と多くの方々にご参加いただきました。理工学部長、理工学研究会会長を始めとするご来賓や卒業生の皆様からのお祝い、ご支援を賜りましたことに深く感謝致します。また、今日まで交通工学科、交通土木工学科、そして社会交通工学科が多くの優秀な卒業生（平成24年3月6,699名）を輩出することができました。これも皆に学部、学科の先生方、随先輩並びに卒業生の皆様方のご厚意、ご協力に對し重ねて感謝申し上げる次第です。

平成25年4月より学科名称を「交通システム工学科」へ変更致しますが、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



航空宇宙工学科創設35周年記念式典開催のお知らせ

航空宇宙工学科 主任 村松 良典
航空宇宙初会長 森田日出男

本年で航空宇宙工学科創設より35年を経過することになり、以下のとおり学科創設35周年記念式典を執り行うことになりました。正式な式次第等の詳細はお届け印刷は5月上旬定めに再度、学科ホームページ等でお知らせさせていただきますが、初卒、皆様御祝い合わせの上、ご予定を空けておいていただきますよう、お願い申し上げます。

1. 開催日時：平成25年6月22日（土曜日）13：30～16：00 式典
16：30～18：00 懇談会
2. 開催場所：日本大学 理工学部 成河台校舎1号館
3. 内容：航空贈賞、学科近況紹介、懇談会
4. 会費：1万円程度（予定）
5. お問い合わせ：航空宇宙工学科事務室
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
TEL：047-463-5387 FAX：047-467-9569
e-mail：aero35@aero.cst.nihon-u.ac.jp
学科HP：http://www.aero.cst.nihon-u.ac.jp/

会誌委員 (◎委員長 ○幹事委員)

◎委員長 池田 謙也 ○幹事委員 川村 昇海 相原 龍弘 山崎 崇介 吉田 幸司 高永 浩
夏見 直之 小嶋 崇行 伊 謙文 高橋 俊一 秋元 英樹 尾崎 知樹 笠原 明雄 今池 博

◆住所表示・郵便先・TEL番号等の変更は事務局までご連絡下さい。

◆クラス会等に「家工」を返却いたします。(納期・送料が保証とはなりません)

◆クラス会の様子を収録した「クラス会がより」掲載希望の場合は、会名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数等をお知らせ下さい。

*各課室・問い合わせ等は理工学部事務局までご連絡下さい。

〒101-8308
東京都千代田区神田成河台1-8-14
日本大学理工学部内 9号館104号室
日本大学理工学研究会事務局
TEL：03-3259-0550
FAX：03-3293-1370（江口・田村）
ホームページアドレス
http://www.koyukai-cst-nu.jp/
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

平成25年度通常総会開催予定

日時：平成25年6月28日（金）
会場：東京ガーデンパレス

平成25年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

(日本大学理工学次会)



編集・発行 篠 沢 達 也
〒101-8308
東京都千代田区神田成河台1-8-14
電話 03-3259-0550
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社トーコー印刷